



HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE

Race 2016 AUTOBACS SUPER GT Round4
SUGO GT 300km RACE
Date 2016.07.23-24
Race Track SPORTS LAND SUGO
Team Gulf Racing with PACIFIC
Car GULF NAC PORSCHE 911



粘りの走りで 24 位から 13 位へ順位を上げ初完走

2016.07.23 QUALIFYING (公式予選 24 位)

WEATHER : DRY

SUPER GT シリーズ第 4 戦が、夏休み最初の週末となる 7 月 23~24 日にスポーツランド SUGO において開催。Gulf Racing with PACIFIC 「GULF NAC PORSCHE 911」(阪口良平 / 吉田広樹)は、予選 24 位からスタートして前半担当の阪口が長いステイントを走り、一時 2 位まで浮上する走りを見せた。ピット作業ではタイヤ無交換作戦を敢行し後半は吉田が堅実に走りきり 13 位でゴール。今季初完走を果たした。

これまで不運なトラブルやアクシデントに見舞われていた「GULF NAC PORSCHE 911」。第 3 戦オートポリスがキャンセルになり 2 か月半近いインターバルが開くことになったが、この間に行われた合同テストに参加することでマイルージを増やし車両のセットアップも進めることができた。そして迎えた第 4 戦の舞台は、仙台郊外の SUGO。このコースはコース幅が狭くアップダウンに富み、さらにタイトなコーナーが連続することで予期せぬアクシデントが起きやすく“魔物が棲む”と言われる。アクシデントに巻き込まれることなく最後まで走りきれば大きく順位を上げることも可能となる。

レースウィークはまだ関東以北が梅雨明けしていないこともあり、ぐずついた天候となり気温も 20℃前後と肌寒いほど。予選日朝の公式練習では、阪口がセッティングを確認しながら 1 分 19 秒 886 で 28 台中 16 位につけた。公式予選では Q1 の上位 14 台が Q2 に進出することができるが、チームはリスクを避けて決勝レース用のセッティングのまま予選に出走することとした。そして Q1 で阪口が出したタイムは 1 分 19 秒 922 で 24 位にとどまることになったが、これは決勝でタイヤ無交換作戦を実行するための布石だった。

決勝日の朝は前夜の霧雨がコース上に残りウェットコンディション。チームではこれまでのテストやレースの経験から、ポルシェはコースコンディションが悪い時に速さを発揮すると判断していた。そしてこのセッションでは阪口が 8 番手となるタイムをマークして、その考え方が間違っていないことを証明すると共に、今後のウェットコンディションでの活躍を予感させた。しかし残念ながらこの日の天候は回復傾向にあり、コースも徐々に乾いていくこととなった。



SPONSORS



PARTNERS





HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE



新車投入も序盤の接触で無念のリタイア

2016.07.24 RACE (決勝 13位)

WEATHER : WET→DRY

決勝レースは 14 時にバレードラップがスタート。前半を担当するのは阪口だ。序盤の混乱を巧みにかわしオープニングラップで 2 台をかわした阪口は、タイヤ無交換ということもありタイヤを劣わりながらの周回を続ける。それでも徐々に順位を上げて 19 位を走行中の 24 周目、後続の車両が最終コーナーでクラッシュしたためにセーフティカーが導入され一旦隊列は整列。この時幸運だったのは、クラストップと同じ周回数であったこと、そしてさらにライバルとの差を縮めて再スタートができることだった。再スタート時に早めのピットインを済ませドライバー交代をする車両がある中、阪口はコースにとどまり徐々に順位を上げていった。さらにピットインのタイミングを遅らせることで、47 周目には暫定的な順位ではあるものの 2 位へ！



50 周で阪口はピットインし吉田に交代。メカニックはシリーズ戦で初めて体験するピットワークをそつなくこなし、吉田を 14 位でコースへ送り出した。吉田は交換していないタイヤを劣わりながら周回。前後の車両との間隔を確認しながら無理をせず、アクシデントに巻き込まれないよう細心の注意を払いながらゴールを目指した。しかしレースも残り 5 周あたりとなった頃、5 台前を走行していた車両が最終コーナーでクラッシュし赤旗が掲出されレースは中断。結果的に 71 周終了時点でレースは終了となり、吉田は 13 位でレースを終えることとなった。ポイントは獲得できなかったが、3 レース目にして完走を果たしようやくスタート地点に立つことができた。大きな収穫を得て、次の富士と鈴鹿では初入賞を目指して戦うこととなる。

■国江仙嗣監督

「決勝ではタイヤ無交換作戦を実行しようと、予選の段階から策を練りました。イチかバチかの作戦でしたが、セーフティカーのに入ったタイミングも良く何とかレースの形にはなりました。入賞はできませんでしたが、とにかくまず完走ができてホッとしています。まだまだ未熟なチームですから今回はチャンブルのような作戦を採るしかありませんでしたが、いつかは王道のようなレース運びをしたいと思っています。みんなが精一杯の仕事をしてくれました。次はシングル入賞を目指します！」

■阪口良平選手

「レースは諦めたらダメ、絶対上位上がるんだという気持ちでレースに臨みました。これまではレースすらできていませんでしたから、とにかくSUGO ではミスをしたくないと心がけて走りました。もちろんタイヤを劣わりながらの耐久走りができました。今回はポイントも取れていないし、これで満足してはダメなんです、これからの最初のステップとしてはいいレースになりましたし、富士と鈴鹿では結果を残していきたいです。チームに感謝しています」

■吉田広樹選手

「僕の担当するスティントは短めでしたし、とにかく最後までタイヤを持たせることが僕の仕事でした。交代した時点で前のクルマとの距離は離れていたし、後ろのクルマとの距離を無線でやりとりしながら順位を守って走りました。いま僕たちができる範囲の中でベストな展開でレースをすることができました。ようやくスタートラインに立ったという感じです。この結果をポジティブに捉えてチャンスのありそうな夏場のレースを戦っていきたいと思います。多くのファンの皆さん、応援ありがとうございました」

 吉田 広樹



S P O N S O R S



P A R T N E R S

